

報告事項ヌ

21世紀型学力検討委員会のまとめについて

21世紀型学力検討委員会のまとめについて、別紙のとおり報告します。

令和2年3月20日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

21世紀型学力検討委員会のまとめについて

令和2年3月20日
高等学校課

1 概要

本県高等学校教育における高大接続システム改革への対応を推進するため、平成28年6月に「21世紀型学力検討委員会」を設置。国等の動きや各校の実状を踏まえながら、授業改革の一層の推進等について協議・検討を進め、一連の改革等に対応した取組や施策等を講じてきたところ。このたび本委員会でのこれまで4年間の検討内容及び今後の取組方針に係る提言等をまとめ、報告書を作成中。今年度中に各校に配付予定。

2 組織構成

(1) 21世紀型学力検討委員会

県内公立及び私立の高等学校長7名の委員からなり、各ワーキンググループでの意見をもとに高大接続システム改革への対応を見据えた授業改革の推進、高等学校課への助言・提案を行った。

(2) アクティブ・ラーニングワーキンググループ

県内高等学校教員12名からなり、アクティブ・ラーニング型授業の普及等に係る意見交換等を行い、高等学校課への助言を行った。

(3) 学力向上ワーキンググループ

県内高等学校教員11名からなり、「大学入学共通テスト」への対応等に係る意見交換等を行い、高等学校課への助言を行った。

(4) 基礎学力向上ワーキンググループ

県内高等学校教員10名からなり、高校教育の質の保証等に係る意見交換等を行い、高等学校課への助言を行った。

3 主な検討事項

- アクティブ・ラーニング型授業の推進について
- ICTを効果的に活用した授業の推進について
- 「高校生のための学びの基礎診断」への対応について
- 「大学入学共通テスト」における、「国語」・「数学」記述式問題の導入及び、「英語」民間試験活用への対応について
- 生徒の学習履歴の蓄積（ポートフォリオ）について

4 総括

報告書へは、これまで各委員から出た評価・意見等及びそれらを踏まえて整理した今後の対応方針を示し、本委員会の総括として提言する。主な掲載内容については次のとおり。

【評価・意見等】

- アクティブ・ラーニングの推進については授業中の生徒の生き生きとした姿や学習意欲の向上などが見られ、非常に効果があった。
- 各校の実態に合わせた手法やICTを活用した授業の推進も含め、新たな形での今後のアクティブ・ラーニングの推進を考えていく必要がある。

【今後の対応方針】

- アクティブ・ラーニング、ICT活用を推進しつつ、BYODによる学びを展開。
- 自主的な学び、また、インクルーシブ教育として、個別最適化された学びを進める。
- バランスのとれた英語4技能育成のための授業改革を推進。
- 「未知の状況に対応できる考える力」、「思考力・判断力・表現力」等の力を重視し、教科での学習に加え、探究活動での育成を図り、その充実を進める。

2 1世紀型学力検討委員会のまとめ（概要）について

高等学校課

高大接続改革に組織的に対応するため、平成28年6月に「21世紀型学力検討委員会」を設置したのを皮切りに、「アクティブ・ラーニング研究WG」「基礎学力向上WG」「学力向上WG」の3つのWGを設置・開催して検討を行ってきた。

1 平成28年度の取組状況

- 平成28年3月31日に文部科学省より公表された『高大接続システム会議「最終報告」』において、「学力の3要素」が定義されるとともに、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善の必要性などが示された。また、「高等学校基礎学力テスト(仮称)」及び「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の導入が発表され、「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」においてはマーク式問題に加え、記述式問題や「英語」の多技能を評価する問題の導入について検討していくことなどが示された。
- このような動きを受け、平成28年度は2回の委員会と1回のアクティブ・ラーニング研究WG会議を開催し、現時点での具体的な対策をアクティブ・ラーニングの推進であるとし、次のような高等学校課関連事業を計画した。
 - ☆21世紀型学力検討委員会の開催
 - ☆21世紀型能力を育むための講師派遣
 - ☆学びの文化祭の開催
 - ☆学習科学セミナー（教育センター事業）
 - ☆ICT授業改革研修
 - ☆東京大学「本郷学習科学セミナー」への教員派遣

2 平成29年度の取組状況

- 平成29年7月13日に文部科学省より公表された「高大接続改革の進捗状況について」では、「高等学校基礎学力テスト(仮称)」に係る検討を踏まえ、「高校生のための学びの基礎診断」の実施方針が策定されたこと及び、「大学入試センター試験」に代わる新テスト、「大学入学共通テスト」の実施方針が決定され、「国語」「数学」における記述式問題の導入、「英語」における民間試験の活用などが示された。
- これらを踏まえ、平成29年度は2回の委員会と1回のアクティブ・ラーニング研究WG会議、1回の基礎学力向上WG会議、2回の学力向上WG会議を開催し、「学力の3要素」をアクティブ・ラーニングにより育成していくという共通理解を図るとともに、「主体的・対話的で深い学び」に関する評価についての研修等を行い、その情報共有を図った。また、今後の本県高等学校における「基礎学力向上」に向けた推進体系等について検討を行ったほか、生徒の主体性の評価に係るポートフォリオへの対応、試行調査（プレテスト）の内容分析や今後必要となる対応等について検討を行い、次のような高等学校課関連事業を計画した。（★は平成29年度から引き続きの事業、☆は平成30年度新規事業）
 - ★21世紀型学力検討委員会の開催
 - ★21世紀型能力を育むための講師派遣
 - ★学びの文化祭の開催
 - ★ICT授業改革研修
 - ★東京大学「本郷学習科学セミナー」への教員派遣
 - ☆「思考力・判断力・表現力」の評価に係る検証事業

高大接続改革への対応

学習指導要領改訂の考え方

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何を学ぶか 何ができるようになるか どのように学ぶか

高大接続改革

高等学校教育改革

《「学力の3要素」の確実な育成》

大学入学者選抜改革

《「学力の3要素」の多面的・総合的評価》

大学教育改革

《「学力の3要素」の更なる伸長》

～令和元年度までの取組等

アクティブ・ラーニングの推進

- 21世紀型学力検討委員会を設置し、一連の高大接続改革への対応を検討
 - 各種事業の成果等を「学びの文化祭」で各校が共有し、各教科・科目における思考力・判断力・表現力を育成
- 〈関連事業〉
- ・未来を拓く学力向上事業
 - ・アクティブ・ラーニング推進事業
 - ・ICT活用推進事業
 - ・CoREFへの教員派遣

令和2年度からの取組等

新しい学びの創造

〈推進内容〉

- ・BYODでの学び
- ・個別最適化された学び
- ・「探究」活動での学び
- ・英語4技能統合型の学び

〈R2年度関連事業〉

- ・ICT活用推進事業（モデル校における検証）
- ・生徒の「思考力・判断力・表現力」の強化のためのハイレベル講座
- ・地域課題をテーマにした解決型学習のスキルアップ事業
- ・外部試験を活用した高校生英語力向上事業

2 1世紀型学力検討委員会のまとめ（概要）について

高等学校課

高大接続改革に組織的に対応するため、平成28年6月に「21世紀型学力検討委員会」を設置したのを皮切りに、「アクティブ・ラーニング研究WG」「基礎学力向上WG」「学力向上WG」の3つのWGを設置・開催して検討を行ってきた。

1 平成28年度の取組状況

- 平成28年3月31日に文部科学省より公表された『高大接続システム会議「最終報告」』において、「学力の3要素」が定義されるとともに、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善の必要性などが示された。また、「高等学校基礎学力テスト(仮称)」及び「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の導入が発表され、「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」においてはマーク式問題に加え、記述式問題や「英語」の多技能を評価する問題の導入について検討していくことなどが示された。
- このような動きを受け、平成28年度は2回の委員会と1回のアクティブ・ラーニング研究WG会議を開催し、現時点での具体的な対策をアクティブ・ラーニングの推進であるとし、次のような高等学校課関連事業を計画した。
 - ☆21世紀型学力検討委員会の開催
 - ☆21世紀型能力を育むための講師派遣
 - ☆学びの文化祭の開催
 - ☆学習科学セミナー（教育センター事業）
 - ☆ICT授業改革研修
 - ☆東京大学「本郷学習科学セミナー」への教員派遣

2 平成29年度の取組状況

- 平成29年7月13日に文部科学省より公表された「高大接続改革の進捗状況について」では、「高等学校基礎学力テスト(仮称)」に係る検討を踏まえ、「高校生のための学びの基礎診断」の実施方針が策定されたこと及び、「大学入試センター試験」に代わる新テスト、「大学入学共通テスト」の実施方針が決定され、「国語」「数学」における記述式問題の導入、「英語」における民間試験の活用などが示された。
- これらを踏まえ、平成29年度は2回の委員会と1回のアクティブ・ラーニング研究WG会議、1回の基礎学力向上WG会議、2回の学力向上WG会議を開催し、「学力の3要素」をアクティブ・ラーニングにより育成していくという共通理解を図るとともに、「主体的・対話的で深い学び」に関する評価についての研修等を行い、その情報共有を図った。また、今後の本県高等学校における「基礎学力向上」に向けた推進体系等について検討を行ったほか、生徒の主体性の評価に係るポートフォリオへの対応、試行調査（プレテスト）の内容分析や今後必要となる対応等について検討を行い、次のような高等学校課関連事業を計画した。（★は平成29年度から引き続きの事業、☆は平成30年度新規事業）
 - ★21世紀型学力検討委員会の開催
 - ★21世紀型能力を育むための講師派遣
 - ★学びの文化祭の開催
 - ★ICT授業改革研修
 - ★東京大学「本郷学習科学セミナー」への教員派遣
 - ☆「思考力・判断力・表現力」の評価に係る検証事業

3 平成30年度の取組状況

- 平成30年度は1回の委員会と1回の基礎学力向上WG会議、1回の学力向上WG会議を開催し、各校における探究的な学習の活動状況、ポートフォリオ等に関する取組状況を共有したほか、「高校生のための学びの基礎診断」への対応方針については、当面受検については各学校で判断という方向性を打ち出し、平成31年1月11日には、高等学校課長名で各県立高等学校長へ「高校生のための学びの基礎診断」の認定について通知し、認定ツールの利活用は各学校の任意、基礎学力の定着や学習意欲の喚起を促すPDCAサイクルの構築・確立に向けた取組の推進を指示した。
- これらの検討を踏まえた、令和元年度高等学校課関連事業は次のとおり。(★は平成30年度から引き続きの事業、☆は令和元年度新規事業)
 - ★21世紀型学力検討委員会の開催
 - ★21世紀型能力を育むための講師派遣
 - ★学びの文化祭の開催
 - ★「思考力・判断力・表現力」の評価に係る検証事業
 - ★ICT授業改革研修
 - ★東京大学「本郷学習科学セミナー」への教員派遣
 - ☆生徒の思考力・判断力・表現力（記述力）の強化のためのハイレベル講座
 - ☆大学入試改革に向けた英語力向上対策事業

4 令和元年度の取組状況及び21世紀型学力検討委員会の総括

- 令和元年11月には文部科学省より、令和3年1月実施の大学入学共通テストにおける「英語」民間試験の導入の見送り、また12月には記述式問題の導入見送りが立て続けに表明されたほか、年末にはICT整備等に係るGIGAスクール構想が明らかにされた。
- これまで、委員会及び3つのWGから具体的な意見集約を進め、関連事業の立案及び計画的な実施に努めてきた折、上記のような大きな方針転換もあり、これまでの委員会の成果及び評価に加え、今後の対応等について協議するため、令和元年度21世紀型学力検討委員会を開催した。
- これまでの委員会の成果として、各委員から「学びの文化祭」における研究授業・研究協議等の実施や21世紀型能力を育むための講師派遣事業などによるアクティブ・ラーニングの推進については授業中の生徒の生き生きとした姿や学習意欲の向上などが見られ、非常に効果があったという評価を得た。その一方で、明確な学力向上との相関関係がデータとして見えないなどの指摘もあった。また、知識構成型ジグソー法を軸としたアクティブ・ラーニングの推進のみならず、各校の実態に合わせた手法やICTを活用した授業の推進も含め、新たな形のアクティブ・ラーニングの推進を考えていく必要があることなどの意見が出された。
- 大学入学共通テストへの対応については、特に「英語」における4技能評価について、限られた時間数の中で4技能の指導に加え民間試験受験の対応も迫られるというような難しさなどについて情報交換がなされ、課題の共有が図られた。
- これらを踏まえ、県教育委員会としては次のような方針を提案し、各委員からは概ね了承が得られた。
 - ・今後も引き続き、アクティブ・ラーニング推進事業、COREFへの教員派遣等を実施しつつ、ICT活用の推進についてはモデル校での取組を重点的に進め、BYODによる学びについても展開し、アクティブ・ラーニングから自主的な学びへとつなげていく個別最適化された学び、また、インクルーシブ教育として、個別最適化された学びを進める。
 - ・英語4技能の育成については、GTECの受験結果等を活用して、バランスのと

れた4技能育成のための授業改革を進めていく。

・「未知の状況に対応できる考える力」、「思考力・判断力・表現力の育成」、「多様な人たちと協同して学んでいく」といった力をつけるために、教科での学習に加え、探究活動での育成を図り、その充実を進めていく。

○これらの方針に係る令和2年度高等学校課関連事業は次のとおり。(★は令和元年度から引き続きの事業、☆は令和2年度新規事業)

★アクティブ・ラーニング推進のための講師派遣事業

★東京大学「本郷学習科学セミナー」への教員派遣

★生徒の「思考力・判断力・表現力」の強化のためのハイレベル講座

★外部試験を活用した高校生英語力向上事業

☆ICT活用推進事業。

☆地域課題をテーマにした解決型学習のスキルアップ事業

5 各関連事業内容

☆21世紀型学力検討委員会の開催

委員会を高等学校長で組織し、今後必要とされる能力を育成するため、文部科学省が進める高大接続システム改革へ対応するための具体的な検討を行う。

☆21世紀型能力を育むための講師派遣

高等学校におけるアクティブ・ラーニング型授業への改革に係る基盤を育成するため、必要に応じて適切な研究者を講師として派遣する。

☆学びの文化祭の開催

協同的・探究的な学習活動やICTの効果的利用を意識した授業研究など、先進的な取組の普及を図るため、県内外の教育関係者に広く呼びかけ、授業公開や分科会・シンポジウム等を実施する。

☆学習科学セミナー（教育センター事業）

全校種の教員を対象に、「知識構成型ジグソー法」を用いた授業実践研究をとおして、「主体的・対話的で深い学び」を引き起こす授業改革に必要な課題設定や教材づくり、学習評価等についての指導力を高める研修を実施する。

☆ICT授業改革研修

学習科学に基づき、ICTを効果的に活用して生徒の思考力・判断力・表現力等を育成するための授業設計を行う技量等を養うとともに、他の教員に対し指導助言を行うICT活用教育を推進するミドル・リーダーを育成する。

☆東京大学「本郷学習科学セミナー」への教員派遣

知識構成型ジグソー法における県内のエキスパートを育成し、校内外の研修の推進力とする。

☆「思考力・判断力・表現力」の評価に係る検証事業

3つの思考力（批判的思考力、協働的思考力、創造的思考力）を選択式、記述・論述式、質問紙で多面的に測るテストを外部機関に委託して試験的に実施し、その成果を検証する。

☆生徒の思考力・判断力・表現力（記述力）の強化のためのハイレベル講座

著名な研究者、実践者等を招へいし、各校における探究活動を充実させ、大学入学共通テストに求められる思考力・判断力・表現力（記述力）の強化を図る。

☆大学入試改革に向けた英語力向上対策事業

大学入試改革により導入される外部試験を予め高校2年生を対象に受験させ、試験への順応を図るとともに、当該試験結果の分析を行い、本県英語教育における効果的な指導法を開発する。

☆ICT活用推進事業

生徒のBYODによるICTを活用した先進的な授業づくり等を支援するため、ICT支援員を派遣する。
 ☆地域課題をテーマにした解決型学習のスキルアップ事業
 外部講師を迎え、生徒・教員を対象に地域課題に係る課題解決型学習のスキルアップを図る。

6 参考資料（令和元年度「高校教育に関するアンケート」調査結果【抜粋】）

○「高校教育に関するアンケート」調査目的等
 ・学力向上等に関する取組に対する生徒・教職員の意識等について把握し、これまでの取組を検証するとともに今後の施策に生かす等のために質問紙により調査。
 ・調査対象は県立高等学校全日制・定時制課程第2学年（年次）生徒及び、県立高等学校教職員全員（主幹教諭、教諭、実習職員、講師）。なお、全日制は第2学年生徒の概ね50％程度を選定、定時制は第2年次生徒全員について調査を実施。

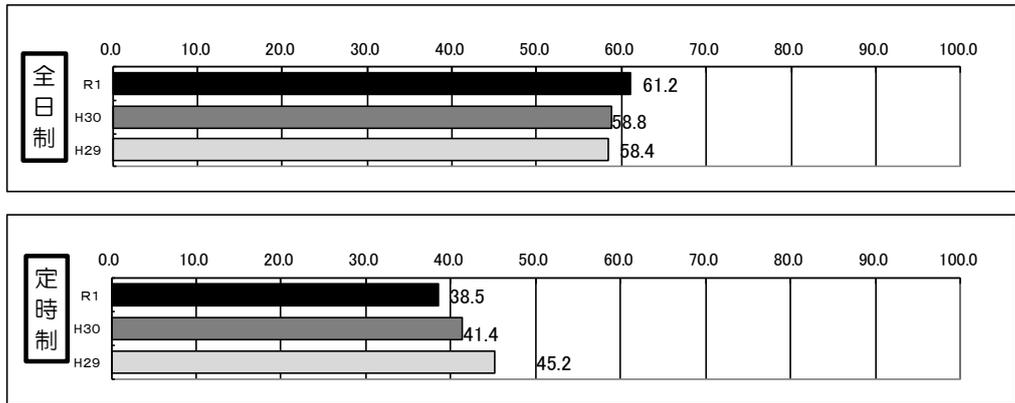
【生徒調査結果より】

2 高校や高校生活に関する意識

エ 高校に入学したときと比べて、確実に学力が身についている

課程・学科種別	（％）					有効回答数	平均値
	5 そう思う	4	3 どちらとも言えない	2	1 そう思わない		
全日制	26.4	34.7	26.7	7.2	5.0	1,774	3.71
定時制	9.2	29.2	46.2	4.6	10.8	65	3.22

<肯定的回答(5・4)割合(％)>

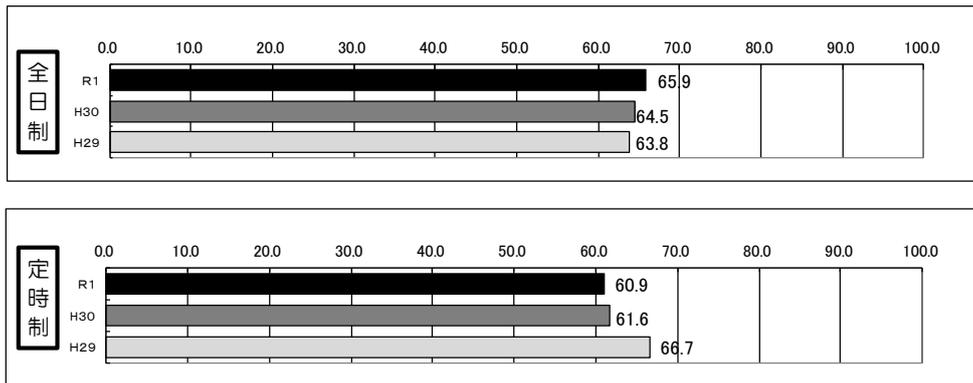


3 高校生活における進路や学習の意識

コ 学校の授業は、分かりやすく、充実したものが多い

課程・学科種別	（％）				有効回答数	平均値
	4 当てはまる	3	2	1 当てはまらない		
全日制	13.3	52.6	28.4	5.8	1,773	2.73
定時制	6.3	54.7	25.0	14.1	64	2.53

<肯定的回答(4・3)割合(％)>



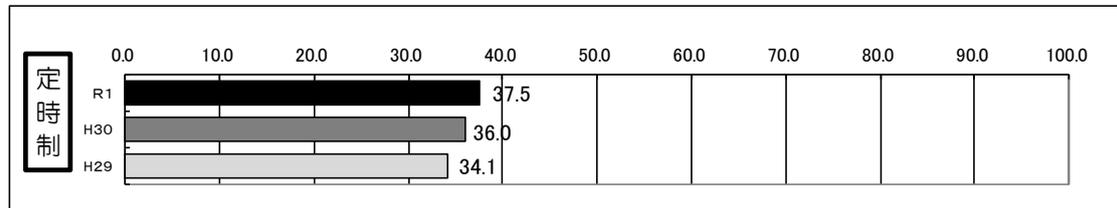
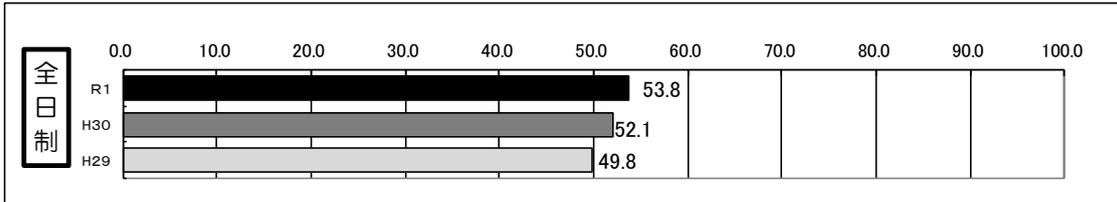
3 高校生活における進路や学習の意識

サ 授業をとおして、意見や考えを相手に分かりやすく伝えられるようになった

(%)

課程・学科種別	4 当てはまる	3	2	1 当てはまらない	有効 回答数	平均値
全日制	9.6	44.2	38.4	7.8	1,776	2.56
定時制	4.7	32.8	45.3	17.2	64	2.25

<肯定的回答(4・3)割合(%)>



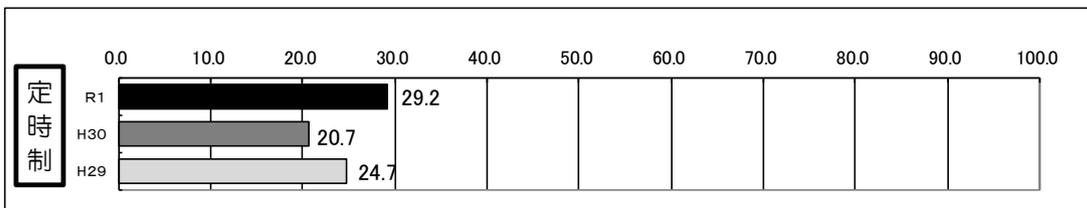
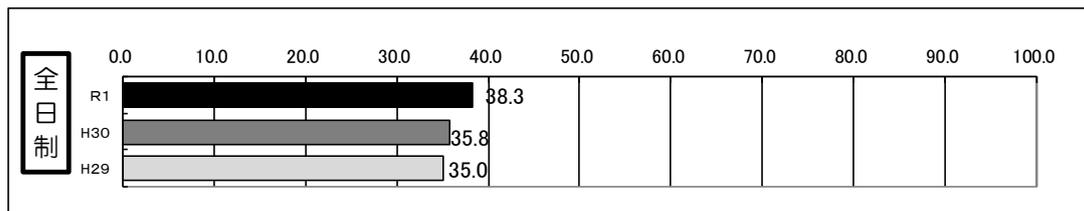
3 高校生活における進路や学習の意識

シ 授業で学んだ学習内容に興味が高まって、授業時間以外でも自分から学んでいる

(%)

課程・学科種別	4 当てはまる	3	2	1 当てはまらない	有効 回答数	平均値
全日制	9.4	28.9	44.0	17.7	1,777	2.30
定時制	7.7	21.5	32.3	38.5	65	1.98

<肯定的回答(4・3)割合(%)>



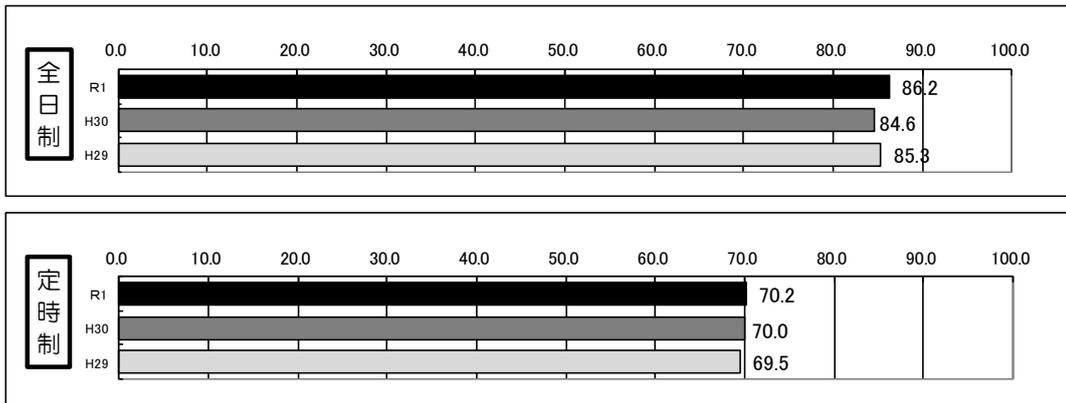
【教職員調査結果より】

1 日頃の教育活動における意識

エ 生徒の発表や活動の時間を確保して授業を進めている

課程・学科種別	4 3 2 1				有効 回答数	平均値
	当てはまる			当てはま らない		
全日制	26.7	59.5	12.3	1.4	981	3.12
定時制	17.5	52.6	22.8	7.0	57	2.81

<肯定的回答(4・3)割合(%)>



1 日頃の教育活動における意識

オ 生徒の話し合いが活性化するよう工夫をしている

課程・学科種別	4 3 2 1				有効 回答数	平均値
	当てはまる			当てはま らない		
全日制	17.6	56.5	24.2	1.7	983	2.90
定時制	8.8	38.6	40.4	12.3	57	2.44

<肯定的回答(4・3)割合(%)>

